

S.C.WORKS 今週のスタディ！

【ヘッドライン】

- 1) 「パナ電工、ナノイー食品庫付き食器棚」
 - 2) 「どん兵衛立ち食い店」
 - 3) 「バリアフリーミカン園」
-

1) 「パナ電工、ナノイー食品庫付き食器棚」

パナソニック電工は水に包まれた微細イオン「nanoe（ナノイー）」の発生装置を搭載した食品庫付き食器棚を12月1日に発売すると発表した。ナノイー発生装置はパナソニックの空気清浄機やエアコンなどに採用しており、食品庫ではジャガイモなど根菜類のカビ発生を抑える効果があるという。湿気がこもりやすい食器収納部分には、湿度を自動的に調整する調湿材を使った。

システムキッチンに対する消費者の不満点として収納の少なさについての意見が多く、鍋類、まな板等の調理器具に続き”常温保存野菜”の収納問題があげられている。

設置工事費がかかり価格がまだ高いため普及はこれからになるかもしれないが、同社のパナホームに組み込むなどシステムキッチンの先鋭設備として注目を集めそうだ。

2) 「どん兵衛立ち食い店」

9月末に過去最も太い“ぶっとうどん”にリニューアルした日清の「どん兵衛」のリニューアルを記念し、JR渋谷駅の山手線のホームに「どん兵衛」の立ち食い店が期間限定で登場。ただの立ち食いでなく、全国の“ご当地どん兵衛”が食べられる。全9種類で全商品200円。お湯の温度やスープの入れ方など、日清食品のスタッフから直々に指導がされている。

10/1のオープン直後からかなり人気で、17：00～18：00台のピーク時には列が出来る。外観やインテリアもインパクト大の「立ち食いどん兵衛 by 日清」は、10/25(日)までJR渋谷駅の山手線内回りホームで開店中だ。

日清の製造工場では、工場見学の際にオリジナルカップ麺が作れるなどファンの心を掴む販促が上手いと評価されている。今回も国民的アイドルのCMや、どの客層も通る駅ナカでのOPENなど間口を広げた販促がリニューアルを大々的に知らせている。

3)「バリアフリーミカン園」

車いすの高齢者や障害者、保育園児らにもミカン狩りを楽しんでもらおうと、バリアフリー化を進めている洲本市宇山の平岡農園で今シーズンのミカン狩りが始まった。9日には島内の視覚障害者ら約20人が訪れ、取れたてのミカンをほおぼった。

同園で働く平岡まきさんが15年ほど前、車いすの子どもがうれしそうにミカン狩りをしている姿を見て、農園のバリアフリー化を思いついた。

約0.5ヘクタールの園内の通路をコンクリートで舗装したり、ゴムシートを敷いたりして段差をなくし、車いすでも通れるようにした。小さい子どもでも簡単に実が取れるように、木の高さを1.5メートルほどに抑えた。さらにバスや車で直接、園内まで乗り付けられるようにして、車いす専用トイレも4カ所設けた。

07年7月にはこれらの取り組みが高く評価され、県主催の「ひょうごユニバーサル社会づくり賞」の知事賞を受賞。評判が広がり、県内だけでなく京都、大阪からも障害者や高齢者が団体で訪れるようになったという。

平岡さんは「広く静かな農園で、多くの方々に喜んでもらえる機会をつくりたい」と話している。

入園料は中学生以上800円、小学生600円、4、5歳児400円。

車いすの方や高齢者と普段生活を共にしていない人にとっては、気がつきにくいことだと思うが、こうした”小さな気づき”で多くの人に参加する機会を得ることができるというのは、とても喜ばしいことだと思う。この平岡農園のように、今後どんな人でもどんな条件でも楽しめるレジャー施設がもっと増えることを期待したい。